各種計画評価シート

No. １１

主管課：係名	環境経済課　：　環境衛生係
計画名称	昭和町一般廃棄物処理基本計画・実施計画
策定の趣旨 （目　的）	近年、特に資源・エネルギーの枯渇、地球温暖化などの環境問題が顕在化し、不法投棄、ごみ量の増加などごみに対する町民の関心も高まっている。 このような状況を踏まえ、あらためて一般廃棄物の処理について、町民・事業者・町が一体となり、循環型社会の形成に貢献できる取り組みを総合的、計画的に推進するための指針が必要となっている。ついては、ごみ処理に関する長期的かつ総合的な事業の推進を行うため、平成３０年度に見直しを行い、本計画を策定することとした。
計画期間 〔策定年月日〕	令和元年度～令和１０年度の　１０年間 既存計画〔令和元年３月策定〕→令和６年３月見直し改訂
総合計画、法令等の位置づけ	・策定の根拠となるもの 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第６条
計画の概要	・主な内容（特徴、予算、その他） １　地域概況の把握 ２　ゴミ処理基本計画 ３　生活排水処理基本計画 ４　その他 ・計画策定体制（計画を策定した組織・機関とプロセス） 資料収集→実績の分析と今後の予測→素案作成→検討→環境審議会で審議 ・策定時の町民意見聴取手法 パブリックコメント実施 ・計画推進体制（計画を推進する組織・機関とそのプロセス） 町民、事業者、町、環境審議会 ・目標設定の有無（数値目標の有無） あり ・評価方法 品目別（可燃・不燃・粗大・資源物等）収集量、リサイクル率など実績値と計画目標値との比較、分析の実施 令和７年度総排出量実績値は、計画目標値と比べて、 ・可燃ごみ　453.37ｔ減少（目標値 4541.29t） ・不燃ごみ　 75.07ｔ減少（目標値 312.93t） ・粗大ごみ　 84.54ｔ減少（目標値 674.28t） ・資源物　 105.98ｔ減少（目標値 945.98t） ・リサイクル率（資源物/総排出量）0.01 ポイント減少（目標値 14.63%）

	また、令和 7 年度総排出量実績値と令和 6 年度総排出量実績値との比較では、令和 7 年度に微増となっている。品目別では、不燃ごみと資源物の品目では減少し、可燃ごみと粗大ごみが増加となっている。 令和 7 年度資源物の収集量は減少傾向であり、リサイクル率は 14.65%になった。
主な施策と進捗状況	進捗状況（令和７年度末現在） 【参考：県 HP　山梨県の一般廃棄物の現状より】 令和 2 年度 リサイクル率　昭和町：14.5% 甲府市：19% 甲斐市：19.2% 中央市：10.2% 南アルプス市：10.6%
未執行の施策と執行できない理由 〔課題 A〕	総排出量については、実績値の比較では（R6→R7）微増しているが、計画目標値との比較においては減少しており、全体的には減少傾向となっている。資源物については、企業努力によりペットボトル、缶類、ビン類等は軽量化が図られ、回収個数は変わらない場合でも重量換算のため計算上ではリサイクル率（資源物/総排出量）は減少となった。紙類はスマートフォン・タブレット等の普及によるペーパーレス化（出版量の減少）や企業回収もあり収集量が減っている。 （紙類の令和 7 年度実績は、計画目標値と比べて、108.89ｔの減少）
今後の計画の進め方 〔課題 A の解決策〕	引き続き、実績による検証を行い、町民意識の向上・啓発を図り、計画目標値に近づけるよう取り組む。 ・各区との連携 ・事業者との連携 ・周知、啓発
総合的な自己評価	**計画全体の総合評価　〈　　B　　評価〉** ランク分け　Ａ＝達成できた　Ｂ＝概ね達成できた　Ｃ＝一部達成できた　Ｄ＝ほとんど達成できていない **※上記評価となった理由** 人口が増加する中でも、ごみの総排出量は計画目標値と比較して減少しており、品目別の比較においても減少しているため、Ｂ評価とした。 なお､資源ごみの収集量は減少傾向にあり､令和 2 年度リサイクル率(14.5%)は、近隣市と比較した場合でも評価できる数値である。今後もリサイクル率の向上が図れるように、周知・指導に努めていく。

※参考資料がある場合は添付すること。